

私はディレクトフォースで、新日鐵住金様を訪問しました。

最初は二高卒業生の方たちのお話を聞きました。営業は外部環境や競合他社、商品開発力、グローバル対応力などの様々な要素を検討しながら、最適解を探すという深く考えることが必要であることが初めてわかりました。

法務の仕事では、戦略法務や予防法務、臨床法務の仕事があります。私は裁判官になりたいと思っていますが、法の勉強をしても法曹という道だけではなく、千葉さんのような契約書の対応や訴訟、クレーム対応など、法に関わる他の仕事もやってみたいなと思いました。吉住さんの広報のお話は最も印象に残りました。広報は企業価値、株価を最大限に高める仕事とおっしゃっていました。広報はマスコミとの信頼関係が大事というお話も、テレビの記者会見を見て、記者に嫌われていると何を書かれるかわからないなという印象を抱いたときがあったので、なるほどと思いました。私たちのような高校生の研修のようなものの担当も広報です。広報は幅広い仕事です。だからこそ、吉住さんの理想の「すべての社員が広報・IR担当」が大切なのではと思いました。

その後、6つの班に分かれてディスカッションを行い、テーマは、「将来会社に入って役に立つ高校時代の経験」でした。みんな各々の意見を出しましたが、結果的に全員の意見の共通点は、「自主的に動けるようになること」です。私は部活動で、先輩たちや先生に何回も「気を使っていない、周りを見て自分から動けていない」と注意されています。中学校のときは先輩たちにある程度気を使って、ある程度自分から動けていれば、よしとされてきましたが、高校ではそのやり方は通用しませんでした。いつでも物事を考えて、周りを見て、他人に気を遣い、いろいろなことにすぐ気が付けるようにしなければなりません。気づいたときに、自分からすぐ動かなければ、物事が回っていかないような経験もしました。

このように、高校生活で自主性が大切だということは、部活動のおかげで学ぶことができました。しかし、ディレクトフォースで二高の卒業生の方たちのお話を聞き、会社も上司の言うことを従順に聞くだけではいけないということがわかりました。例えば、黒澤さんの話によると、工場では周りをちゃんと見て歩かないと、怪我をしてしまうおそれがあり、危険です。さらに、どの役職の人にも当てはまりますが、自らアイデアを出していくような自主性が重要であるとおっしゃっていました。佐藤さんは営業、千葉さんは法務、黒澤さんは開発、吉住さんは広報と一つの会社に様々な役職の人たちがいることを実感することができました。

私たちは企業大学訪問で、アディーレ法律事務所様を訪ねました。

私の将来の夢は裁判官なので、法曹の方にお話を聞くことができる貴重な機会をととても楽しみにしていました。当日は弁護士の岩沙さんにお話を聞くことができました。弁護士は刑事事件だけでなく、特定の分野だけでなく、幅広い複数の分野を扱える人が多数いるそうです。あまり時間もなかったので少しだけ質問をさせていただき、様々なことを学ぶことができました。

まず、裁判所への訴訟の書面を書くなどの地道な作業が大変だということがわかりました。書面には正確性が必要で、気が抜けないそうです。人間関係で大変なことが多いのかと思っていたので、私的には意外な答えでした。やりがいは法的トラブルに直面して、悩んで不安そうにしている依頼の方が、依頼が解決していくにつれて、ほっとして安心そうにしているところを見たときだそうです。そのとき、お手伝いできてよかったと思うそうです。さらに、弁護士など法曹で重要なのは学歴ということも学びました。情報開示があるので、どこの高校や大学の出身かすぐにわかるようになっています。できるだけ若い年齢で東京大学や京都大学などの日本トップクラスの大学に受かった方がいいそうです。そうすると、優秀な人だと思われ、世間からの信用を得ることができます。ですので、高校でやっておくべきことは、良い大学に入るために勉強を頑張ることだとおっしゃっていました。検察官や裁判官は司法試験の上位100~200人がなれるものなので、とても厳しい道です。私も今のうちから勉強を頑張ってやっておこうと思いました。また、弁護士になる人は普通法学部に入りますが、岩沙さんは最初、経済学部に入りました。そこで民法の授業を受け、法律に興味を持ち、そして、大学二、三年生のときに弁護士になろうと思ったそうです。最初に経済学部に入っても法曹を目指すことが可能だと知ったので、将来様々な職業に興味を持ち迷うかもしれませんが、色々な道があることが分かり安心しました。

私が裁判官になろうと思ったきっかけは、刑事裁判では冤罪を出さないようにし、悪事をはたらいた人には正当な罰を与えて、民事裁判ではどちらが正しいのかという判断などを公平・公正にしたいと思ったからです。裁判官になろうと思うことは誰にでもできますが、実際になれる人はとても少ない人数です。さらに、大学の法学部を卒業後、法科大学院で2年間法律の勉強をし、司法試験に合格しても、判事補として10年間学ばなければなりません。とても長く険しい道のりです。ですが、弁護士の方のお話を聞き、やはり法曹の道は弁護士と裁判官で職業は違えど、人を法に則って助けることの大変さとやりがいがあるということを知ることができました。今回の経験でより一層、裁判官になりたいという気持ちが強まりました。

東京大学見学会では、最初に経済学部の模擬講義に行きました。

経済学は文系の学部ですが、数を取り扱うことが多く、数学も大切になってきます。連立方程式や微分方程式など多くの数学が出てくるということを初めて知り驚きました。また、経済学部を卒業した後は金融業に就職する人が多いことも初めて知りました。経済学部を卒業したらどのような職業に就くのか興味があったので、知ることができて良かったです。

午後は法学部に行きました。私は将来法学部に進学したいと思っているので楽しみにしていました。まず、民事訴訟の講義を受けました。民事訴訟は簡易裁判所だけで毎年333746件もの数が新たに提起されています。中でも金銭のトラブルによる訴えが多いそうです。民事訴訟は私人間のトラブルに関わることは知っていましたが、ときには国も私人という扱いになることを初めて知りました。刑事事件というのは、国家が権力を行使する側で国民が行使される側のときのものですが、民事事件は対等な関係にあるときのものということが分かりました。刑事事件と民事事件のことは知っていましたが、明確な違いを知ることができて目からうろこが落ちる思いでした。

次に、政治学の講義を受けました。岩倉使節団についての講義でした。岩倉使節団は相手の国が誤解したまま条約改正の話を進めようとしたのですが、当初は条約を改正するつもりではなかったのに改正についての協議をするなど、思っていたよりずる賢いというか、臨機応変さがあるというか、ちゃっかりしているなと思いました。しかし、一步間違えばアメリカなどの欧米諸国の機嫌を損ねて、攻め込まれたりする危険性もあったので、もう少し慎重にやってほしいと思いました。

東大の模擬講義は進むスピードが速くついていくのが精一杯で、さすが日本一の大学だと思いました。このままでは、どこの大学の授業もついていくことができないので、もっと勉強を頑張ろうと思いました。